

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 1 月 25 日 (2007.1.25)

【公表番号】特表 2006-508128 (P2006-508128A)
 【公表日】平成 18 年 3 月 9 日 (2006.3.9)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-010
 【出願番号】特願 2004-551865 (P2004-551865)
 【国際特許分類】

A 6 1 K 31/65 (2006.01)

A 6 1 P 11/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/65

A 6 1 P 11/00

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 11 月 28 日 (2006.11.28)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

敗血症-誘発型 A R D S の予防が必要な哺乳類の該 A R D S の予防用組成物であって、前記哺乳類に、敗血症-誘発型 A R D S の予防に有効であるが、実質的に抗生物質活性のない量で投与されることを特徴とする、テトラサイクリン化合物を含む上記組成物。

【請求項 2】

前記テトラサイクリン化合物が、抗生物質テトラサイクリン化合物であり、抗生物質量の 10 ~ 80 % の量で投与されることを特徴とする、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

前記テトラサイクリン化合物が、ドキシサイクリンであり、約 20 mg の用量で 1 日 2 回投与されることを特徴とする、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 4】

前記テトラサイクリン化合物が、ミノサイクリンであり、約 38 mg の用量で 1 日 1 回投与されることを特徴とする、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 5】

前記テトラサイクリン化合物が、ミノサイクリンであり、約 38 mg の用量で 1 日 2 回投与されることを特徴とする請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 6】

前記テトラサイクリン化合物が、ミノサイクリンであり、約 38 mg の用量で 1 日 3 回投与されることを特徴とする請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 7】

前記テトラサイクリン化合物が、ミノサイクリンであり、約 38 mg の用量で 1 日 4 回投与されることを特徴とする請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 8】

前記テトラサイクリン化合物が、テトラサイクリンであり、約 60 mg/日の用量で 1 日 1 回投与されることを特徴とする請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 9】

前記テトラサイクリン化合物が、テトラサイクリンであり、約 60 mg/日の用量で 1 日

2 回投与されることを特徴とする請求項 1 記載の組成物。

【請求項 1 0】

前記テトラサイクリン化合物が、テトラサイクリンであり、約 6 0 mg/日の用量で 1 日 3 回投与されることを特徴とする請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 1 1】

前記テトラサイクリン化合物が、テトラサイクリンであり、約 6 0 mg/日の用量で 1 日 4 回投与されることを特徴とする請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 1 2】

前記テトラサイクリン化合物が、抗生物質テトラサイクリン化合物であり、結果として最少抗生物質血清濃度の約 1 0 ~ 8 0 % である血清濃度になる量で投与されることを特徴とする請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 1 3】

前記テトラサイクリン化合物が、ドキシサイクリンであり、結果として約 1.0 μ g/ml の血清濃度になる量で投与されることを特徴とする請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 1 4】

前記テトラサイクリン化合物が、ミノサイクリンであり、結果として約 0.8 μ g/ml の血清濃度になる量で投与されることを特徴とする請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 1 5】

前記テトラサイクリン化合物が、テトラサイクリンであり、結果として約 0.5 μ g/ml の血清濃度になる量で投与されることを特徴とする請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 1 6】

前記抗生物質テトラサイクリン化合物が、ドキシサイクリン、ミノサイクリン、テトラサイクリン、オキシテトラサイクリン、クロロテトラサイクリン、デメクロサイクリン又はその薬学的に許容しうる塩である、請求項 2 又は 1 2 に記載の組成物。

【請求項 1 7】

前記抗生物質テトラサイクリン化合物がドキシサイクリンである、請求項 1 6 に記載の組成物。

【請求項 1 8】

前記ドキシサイクリンが、約 0.1 ~ 約 0.8 μ g/ml の範囲の血清濃度を与える量で投与されることを特徴とする、請求項 1 7 に記載の組成物。

【請求項 1 9】

前記ドキシサイクリンが 1 日 2 回 2 0 mg の量で投与されることを特徴とする、請求項 1 7 に記載の組成物。

【請求項 2 0】

前記ドキシサイクリンが、2 4 時間にわたって徐放投与されることを特徴とする、請求項 1 7 に記載の組成物。

【請求項 2 1】

前記ドキシサイクリンが 4 0 mg の量で投与されることを特徴とする、請求項 2 0 に記載の組成物。

【請求項 2 2】

前記テトラサイクリン化合物が非抗生物質テトラサイクリン化合物である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 2 3】

前記非抗生物質テトラサイクリン化合物が、
4-デ(ジメチルアミノ)テトラサイクリン(CMT-1)、
テトラサイクリノニトリル(CMT-2)、
6-デメチル-6-デオキシ-4-デ(ジメチルアミノ)テトラサイクリン(CMT-3)、
4-デ(ジメチルアミノ)-7-クロロテトラサイクリン(CMT-4)、
テトラサイクリンピラゾール(CMT-5)、
4-ヒドロキシ-4-デ(ジメチルアミノ)テトラサイクリン(CMT-6)、

4-デ(ジメチルアミノ)-12-デオキシテトラサイクリン(CMT-7)、
 6-デオキシ-5-ヒドロキシ-4-デ(ジメチルアミノ)テトラサイクリン(CMT-8)、
 4-デ(ジメチルアミノ)-12-デオキシアンヒドロテトラサイクリン(CMT-9)、又は
 4-デ(ジメチルアミノ)ミノサイクリン(CMT-10)

である、請求項 22 に記載の組成物。

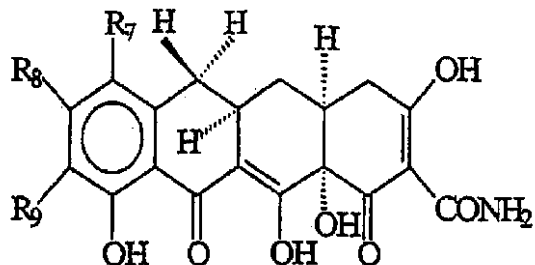
【請求項 24】

前記テトラサイクリン化合物が、ドキシサイクリンの光刺激係数より低い光刺激係数を有する、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 25】

前記テトラサイクリン化合物が下記一般式を有する、請求項 24 に記載の組成物。

【化 1】



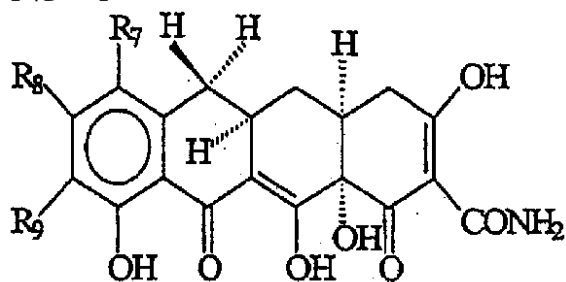
構造 K

(式中、 R_7 、 R_8 、及び R_9 は、ひとまとめにしてそれぞれ水素、水素及びジメチルアミノである。)

【請求項 26】

前記テトラサイクリン化合物が、以下の化合物：

【化 2】



構造 K

(式中、 R_7 、 R_8 、及び R_9 は、各場合ひとまとめにして以下の意味を有する。

R_7

水素

水素

R_8

水素

水素

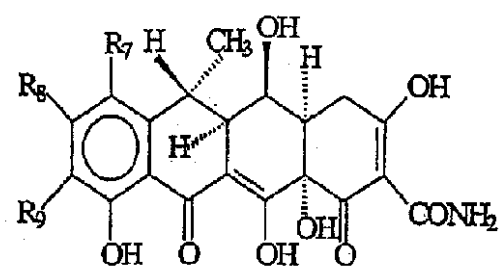
R_9

アミノ

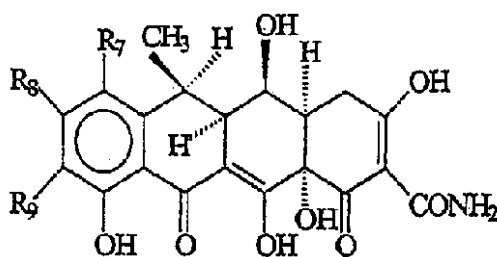
パルミトアミド)；

及び

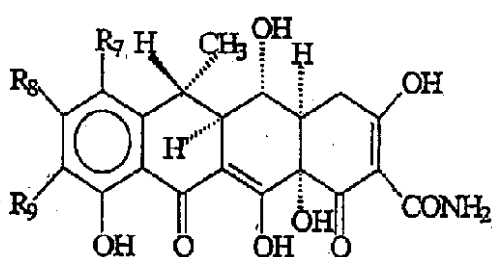
【化 3】



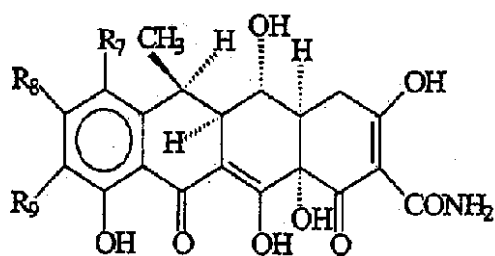
構造 L



構造 M



構造 N



構造 O

(式中： R_7 、 R_8 、及び R_9 は、各場合ひとまとめにして以下の意味を有する。

R_7
水素
水素
水素
水素

R_8
水素
水素
水素
水素

R_9
アセトアミド
ジメチルアミノアセトアミド
ニトロ
アミノ) ;

及び

構造 P

(式中： R_8 及び R_9 は、ひとまとめにしてそれぞれ水素及びニトロである。) ；
から成る群より選択される、請求項 24 に記載の組成物。

【請求項 27】

前記テトラサイクリン化合物が全身投与されることを特徴とする、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 28】

前記全身投与が、経口投与、静脈内注射、筋肉内注射、皮下投与、経皮投与又は鼻腔内投与である、請求項 27 に記載の組成物。

【請求項 29】

毒ガスの吸入によって誘起されるARDSの予防が必要な哺乳類の該ARDSの予防用組成物であって、前記哺乳類に、毒ガスの吸入によって誘起されるARDSの予防に有効であるが、実質的に抗生物質活性のない量で投与されることを特徴とする、テトラサイクリン化合物を含む上記組成物。